

地域主導型の公共交通支援の実現に向けた意見交換会 長浦会場 主な質疑応答の要旨

日 時：平成24年12月22日(土) 10:00～12:44

場 所：長浦おかのうえ図書館 3階視聴覚室

出席者：千葉まちづくりアーカイブズ協議会事務局 千葉工業大学 青木 梶原 泉口
NPO法人ライフサポート波岡 近藤理事長 目黒副理事長 高須理事
袖ヶ浦市企画課長 公共交通担当職員3名

参加者：65名(男性48 ・女性17)

参加者：木更津市波岡の生活バスの事例は聞いていて、とても素晴らしい内容であると思うが、とても簡単にできるものではないと感じた。自助、共助、公助という言葉があるが、我々市民が自助をもっと大切していかなければ、公助が拡大し役所の税金が増え続けてしまう。しかし、この事業を行うには運行費用が必要となる訳で、やり甲斐だけでは実施できるものではないと思うが、なぜ、ライフサポート波岡が地域ボランティアとして、これまで継続してこられたのか伺いたい。



近藤理事長：ボランティア活動というものを、お金を持っていて健康的で日常生活で時間を持て余している人が行うと会場の皆さんが思っていたら非常に残念である。私たちの仲間の大半は病気持ちで、特にお金を持っている訳でもなく、他に趣味を持っているので時間を持て余している訳でも無い。ただ、この活動をやっていく上で、自分達の手でどうやってまちを作るかという強い思いがある。行政に頼れば簡単な話ではあるが、そんなことをしていたら行政の予算がいくらあっても足りない。また、続いている要因としては、メンバー全員が残りの人生を地域貢献に充てたいと思っているし、我々メンバーは私生活に一切関与しないこととしている。また、運行資金の確保は絶対必要であり、ただ生活バスの運転だけをするのではなく、農作物の栽培や植木管理など、メンバー各々の得意な分野で資金集めに携わってもらっている。全てを背負うのではなくて自分のできる範囲をやればよいというスタンスである。

参加者：会員数は現在どの程度増えているのか。

近藤理事長：我々は会員を増やす目的で行っていません。今、必要な方が利用できれば良いので、特にPRは行っていません。PRをすると利用者が増えて現在の車輛では対

応できなくなり、100万円もの支出により車輛を購入しなければならないので、必要とする人のみをターゲットに細々と運営している。

司会：今のお話は、活動を行う際はできる範囲でできることを行うことが重要であり、意義のある活動と考えるとハードルが高くなりがちであるので、自分達のできることを考えるべきである。



参加者：組織の活動拠点となる事務所はどうしているか。

近藤理事長：団地のコミュニティプラントの施設が公共下水道接続に伴い、不要となったため、その管理棟を管理する条件にて無償で借りている。

司会：千葉工業大学の学生と一緒に地元の課題解決に向けて調査・検討させていただいており、袖ヶ浦市では交通問題で平川地区の区長さん等とお話をさせていただいておりますが、外部の目線でみた感想を学生から話してもらいます。

千葉工業大学：習志野市や南房総市の活動にも携わっているが、市民の方々が自分達のまち自分達でという思いがまちづくりには大事であると感じた。特に袖ヶ浦市は市民に対する行政のバックアップが他市に比べて充実していると感じ、今回の交通問題の件についても、これだけ多くの方がお集まりいただいたので、今後、多くの方が声を出し、できることを行うことにより、住みやすいまちづくりができると思いました。

司会：他市との違いということで高齢化がキーワードになると思うが、ここで企画課長から袖ヶ浦市の高齢化率についてお話いただけますか。

企画課長：袖ヶ浦市の高齢化率は21%であり、先の国勢調査では全国平均が23%であったので、若干若い市であると言えます。ただ、若いと言っても地区別に見ると昭和地区、長浦地区は全国平均及び市平均より低いですが、平岡地区、中川地区、富岡地区は全国平均を大きく上回っており、市内各地で差があります。

司会：袖ヶ浦市の立地特性として、田園地帯が広がる内陸部と開発の進む臨海部と、分かりやすく言うと都市と農村という2つの特色を兼ね合わせた市であり、この2つの地域を市の中で二分するのではなくて、どうやって共通な考えを持たしていくのが難しい地域ではないでしょうか。

司会：木更津市の立地特性もどちらかと言えば袖ヶ浦市に近いと思うが、袖ヶ浦市の高齢化率を聞いてどうお感じですか。

近藤理事長：我々の地域の3年遅れくらいの高齢化ですね。現在、地域内で最も高齢化率の高いところは40%あるが、その一方で団地の中で最近できた区画の高齢化率は5%という地域もある。各々の公園に行くとその賑わいの違いに驚きを感じる程である。



司会：私も南房総市の活動に携わっている中で、高齢化について驚かされたエピソードとして、南房総市の職員の方に聞いた話であるが、ある地域で若い夫婦が生活を始め、小さな子供をおばあちゃんに預けて面倒を見てもらっていた。するとある日、自分の子供が腰を曲げて歩くようになった。高齢化率が40%を越える地域であり、周りが全て老人であることから、腰を曲げて歩いている人を見ているうちになってしまい、両親は慌てて保育園に預けたという話を聞いた。笑い話でもあるが、高齢化によりこのような深刻な事態も発生しているということです。

司会：会場の皆さんにお聞きします。皆さんの地域において高齢化で困っている状況等がありましたら、お話いただけますか。

参加者：高齢化の問題は若者の就職場所がないということ、平川地区の高齢化率が高いのは、そういうことで若者が都市部へ出て行く。都市部へマンションやアパートを建てても結局高齢化で空き家が増える悪循環になってくると思います。もっと、その辺りを行政が積極的に行っていかなければならないと思います。

近藤理事長：確かに行政がなんとかしなければならない課題であるが、我々のレベルでも解決できる問題ではなく、確かに行政への突き上げは必要であると思うが、やはり、そういう中でも日常生活は動いているのだから、住み良い、心地よいというのは、我々自身でやっていかなければならないと思う。高齢化だからといって何もやらなければ、その地域は死んでしまい、我々の子供や孫も報われない。

参加者：市は公共交通機関にどのくらい助成しているのか。

企画課長：概ね7,000万円です。

参加者：20年度では4,800万円とか、5,000万円程度であったと思うが、年々

10%程度増えているのか。

企画課長：概ね、その程度で推移しております。7,000万円の内訳をお話しますと、路線バスに6,000万円程度、デマンド型乗合タクシーに1,000万円程度です。

参加者：市として、このまま助成額が10%ずつ増えていくことにどのように考えているのか。

企画課長：当然、このままでは良い訳ではありません。路線バスについては、現在、市が補助して維持している路線が4路線あり、市の補助がなければ基本的に廃線になるものであります。これらの路線についてもバス会社と一緒に、運行の合理化などについて協議しています。

また、路線バス以外に、本日のテーマとなっている交通手段を持たない交通弱者の対策についても様々な取組みをさせていただいているが、利用状況が少なく収益率も悪いことから、地域に密着した足という手段にはならないため、行政だけの取組みでは限界を感じているところであります。

参加者：25年前に地域乗合については、市が地域と話し合ったことがあったが、当時は路線バスとの兼ね合いや、車輛を運転するドライバーの問題から、実現しなかった経緯があったと認識している。今回、やっと、このように前向きに進み始めた訳であり、熱い思いを持った方がここにお集まりになっており、市がもっと踏み込んで、実現に向けた具体的な提示をしていただければ、もっと広がり、市民に身近な足になるのでしょうか。

目黒副理事長：もちろん市は市で考えているだろうし、地域の方に喜ばれる乗合バスにするには、行政うんぬんではなく、まず地域で集まって話し合っ決めていくことが重要である。それに対し時々行政に参加してもらおうスタンスで十分である。

とにかく、まず自分達で踏み出してもらいたいと思います。

近藤理事長：袖ヶ浦市民の皆さんは乗合を始めようとする場合、今が一番良いチャンスであると思う。我々のように何の支援もなく始めたことを思えば、袖ヶ浦市は今、地域乗合交通をスタートさせたいと考えているようなので、何らかの支援はしてもらえないのか。また、路線バスに市が7,000万円もの補助を行っていることに、皆さんは驚いたと思うが、税金がそのように使われるのであれば、もっと自分達の使い勝手の良い仕組みづくりに地域



が知恵を出さなければ、自分達の権利なんて主張できない。

もし、皆さんの中で、覚悟をもって地域乗合をスタートするにあたり、リーダーになるのは嫌だけど、協力してくれる人が集まるのであれば、私は木更津の市民ではあるが、袖ヶ浦の地域のリーダーを受けても良いという覚悟で今日はお邪魔しています。ライフサポート波岡のノウハウや資料も全て提供するつもりでテーブルについています。ただし、ここは皆さんのまちですから、皆さんが中心に活動する訳です。市が違うからとかではなく、同じ志をもった仲間に協力することに何ら抵抗はありません。ですから、皆さんで今日を契機に地域で集まって話し合ってみては如何ですか。

企画課長：ただいま近藤理事長さんからご提案をいただきましたが、市からお願いがあります。市も支援の仕方を考えていく上で、今、ご発言いただいた方々や、会場の皆様方に地域で出来ることや、地域でこうしたいということ市役所企画課にて、お話しをお聞かせいただきたいと思いますので、是非ご連絡をお願いいたします。

参加者：本日の話を聞いて、「良い話だったね」で終わりにするのではなく、みんなで立ち上がりませんか。いずれ、誰もがお世話にならなければならないことであり、是非、各地域に浸透するように目指していくよう切にお願いしたいと思います。

12時44分 閉会